

令和元年度 専門学校山梨県立農業大学校 評価シート

評価基準(達成度)		
4	適切	評価指標の8割以上達成
3	ほぼ適切	評価指標の6割以上達成
2	やや不適切	評価指標の5割以上達成
1	不適切	評価指標の達成5割未満

重点目標:就農に向けた幅広い人材の確保と育成
:就農希望者に対する円滑な就農・定着の推進

課題番号	課題	目標	評価項目	具体的方策・評価指標	内部評価			外部評価委員会の意見・提言
					経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善策	
1	専門学校として幅広い人材の確保	将来の農業の担い手育成に向け、農業を志す高校生等に対して農業大学校のPRを行い、幅広い人材を確保する。	・高校生等への農業大学校への理解促進 ・学校説明会参加者の確保 ・令和2年度入学生の確保	①入学者の確保 次年度入学志願者数 養成科33人以上 専攻科 3人以上 ②高校訪問の実施 高等学校などへの訪問回数 延べ100回以上 ③ホームページ等での情報発信 新聞、同窓会だより、HP、ブログなどでの入学募集の周知回数 延べ35回以上 ④本校における学校説明会の実施 学校説明会参加者数 延べ100人以上 ⑤高校や民間が主催する進路相談会での学校紹介 進路相談会への参加 10回	①入学志願者数 養成科37名 専攻科 4名 ②訪問回数 延べ105回 ③報発信回数 延べ36回 ④参加者 128名 ⑤参加回数 10回 達成率 100% (6項目中6項目達成)	4	高校生の高い就職率や大学進学希望者増加のなか、高校との連携や進路担当教諭への情報提供により、これまで以上に普通高校からの本校への進学を誘導できた。来年度は、学校訪問や進路説明会をより一層充実させ、高校生や進路担当教諭に農大の就職状況や魅力を発信する必要がある。また、学校のPRについてはホームページやブログ等による情報発信を積極的に行っていく。	・よく努力している。定員を超過する応募があることは良い。 ・就職率が高いことをもっとアピールしていくべきである。 ・高校にはない、魅力的な学校でなければならない(教育内容、教育施設等)。
2	農業系高校との教育交流の推進	農業系高校と農業大学校との連携による専門教育を推進するとともに、教員や学生の交流を図る。	・農業系高校との連携強化	①連携推進会議、連絡会議の開催による連携強化 教育交流アンケートで本校に興味を持った生徒の割合 75%以上 中学生へのPRパンフ作成・配布 8,000部 ②本校職員による高校生に対する授業の実施 出前授業実施回数 15回 農業系高校の本校での実習 3校 ③プロジェクト発表会での相互交流 プロジェクト発表会への高校職員・生徒の参加 20人 ④教職員、学生の交流 教職員の合同研修 1回 学生交流の実施 7回	①興味を持った割合 77.9% パンフ配布 8,000部 ②出前授業回数 15回 実習実施 3校 ③参加者 19人 ④研修開催 交流回数 7回 達成率 86% (7項目中6項目達成)	4	農業系高校との連携による中学生に向けた農業への進路啓発のパンフレットを継続して作成・配布した。今後もJA及び関係機関とも連携しながら、農業高校から農大への一貫した農業教育の定着推進を図っていく。また、GAP、ICT、ドローン等先進的な技術の導入など、変化が激しい農業現場の新たな動きや情報等を農業系高校に提供しながら、時代のニーズに対応できる人材の確保・育成に向けた戦略の共有にさらに努めていく。	・教育交流のなかで、農大としての高度な教育(教育内容、教育施設)を示してほしい。 ・スマート農業(ICT、ドローン、GAP)を教材として活用すべきである。 ・経営の専門家を配置した方がよい。

3	実践教育の充実と学生の技能・知識の向上	実践的な教育を進め、専門学校として特色ある学校づくりを推進する。また、学生の技能・知識の向上を図り、進路決定に向け支援を充実する。	<ul style="list-style-type: none"> ・教育内容の充実 ・実践能力の向上 ・課題解決能力の向上 ・技術・知識の向上 ・進路指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ①学生の就農・農業関連企業等への就職支援 学生の就農(自営+雇用就農) +JA等への就職率 50%以上 ②農場実習や先進農家派遣実習等の実施 先進農業派遣研修受入れ農家の学生に対する「非常によい」評価割合 70%以上 ③プロジェクト研究やビジネスプランの実施 プロジェクト研究等の発表会におけるA評価の割合 70%以上 ④企業ガイダンスの実施、就職セミナー等への参加指導、農業に参入した企業の協議会との連携 学生の進路決定率 90%以上 ⑤有機農業・先端技術講座・6次産業化に向けた農産物加工の講義・実習の実施 有機農業・6次産業化・先端技術への関心と理解が高まった学生の割合 90%以上 ⑥農業基礎技能競技会の実施、農業技術検定等資格取得に向けた特別講義の開催 免許・資格の平均取得数 4以上 ⑦県内大学との連携による特別講義・実習の実施 連携大学 3校 	<ul style="list-style-type: none"> ① 就農率 〈醸造用ブドウ栽培含む〉 68.2% (15/22) ② 「非常に良い」割合 76.9% (20/26) ③ A評価割合 72.0% ④ 進路決定率 100% (26/26) ⑤ 関心高まった割合 95% ⑥ 平均資格取得数 4.3 ⑦ 連携大学 3校 達成率100%(7項目中7項目達成) 	4	<p>就職志向の傾向が強く、即就農希望は低いのが現状である。農業法人への就職に加え、JAや醸造メーカー(栽培管理)への就職学生が多くなっている。長期的視点も持ちながら、引き続き就農意欲の醸成に向けた取り組みを行っていく。</p> <p>近年の人手不足の中で求人が増加し就職率は向上してきているが、進路希望を明確にさせ目的意識を持って修学できるよう、より早い段階から進路指導していく必要がある。</p> <p>県内大学との連携については、今年度も県立大学との農福連携を本格的に実施した。今後の連携を進めるため、教育協定による学生の交流、特別講義の実施等に向けた取り組みを行っていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・派遣実習は派遣先とのマッチングが重要である。 ・農業法人への就職には、農業機械を使いこなせるようになってほしい。 ・JAなどに就職してもコミュニケーションが下手な学生が多い。学生のうちからコミュニケーション能力を高めるカリキュラムがほしい。
4	就農希望者に対する円滑な就業・定着の推進	実践的な農業体験の場の提供と、関係機関との連携による即戦力となる人材を育成し、就業定着を進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・ニーズに応じた就農研修の充実 ・離転職者の農業分野への就業支援 ・就農研修の充実による就業定着の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ①就農フェアや就農相談会等への参加 県内外の就農相談会への参加 4回 " の出席者数 延べ150名以上 職業訓練農業科への応募者数 80名以上 ②就農トレーニング塾(農業体験研修・週末農業塾)の実施、職業訓練農業科(果樹・野菜・有機農業コース)の開設 就農トレーニング塾の受講者数 80名以上 職業訓練受講者へのアンケートで「おおむね満足」以上の割合 8割以上 ③職業訓練農業科訓練生の円滑な就業に向けた農業振興公社、農務事務所担当者との情報交換会の実施 職業訓練農業科訓練生の農業分野への就業率と研修継続率の合計 80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ①フェア・相談会 参加回数 5回 出席者数 155名/150名 応募者数 62名 ②就農トレーニング塾受講者数 83名 職業訓練受講者「おおむね満足」以上 95.8% (46/48) ③農業分野への就業率と研修継続率の合計 81.3% (39/48) 達成率83%(6項目中5項目達成) 	4	<p>他県からの移住も含めて、新規参入やUターンによる本県への就農希望のニーズはブドウ栽培希望者を中心に継続しているが、農業への認識が不十分なまま職業訓練農業科に応募するケースが依然として見られる。</p> <p>農務事務所などとの連携を強化しながら、就農相談等の機会や各種PR活動を通して、就農トレーニング塾の受講により、農業への適性判断や営農目標の明確化などを行った上で本格的な訓練に臨むように誘導していく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・就農に向けての研修の重要度は高い。9ヶ月では短いので就職後も技術・知識の向上が図れるとよい。 ・訓練生の果樹・野菜の定員と応募者数とのアンバランスな状況については、希望する訓練がなるべく受けられるよう現体制の中でも改善が必要である。
5	農業の発展に向けた研修の充実	農業の経営力を強化する一つの方法として、6次産業化のプロセスを座学と演習により実践力を習得する。農業者の農業機械の基本操作の習得、安全利用に関する知識を習得する。	<ul style="list-style-type: none"> ・計画どおりの開催回数 ・研修生の満足度 ・各種農業機械研修の実施回数、対象目標人数 	<ul style="list-style-type: none"> ①農業者を対象とした農業経営セミナーの実施 農業経営セミナーの開催(座学4回、演習4回)計8回 農業経営研修の受講者へのアンケートで「おおむね満足」以上の割合 8割以上 ②農業者、農業指導者を対象とした農業機械研修の実施 農業機械研修の開催 9回 農作業安全に関わる研修受講者 100名以上 農業機械の運転操作技術向上に関わる研修受講者 50名以上 	<ul style="list-style-type: none"> ①農業経営研修 開催回数 8回 「おおむね満足」以上 89.6% (43/48) ②農業機械研修 開催回数 8回 (新型コロナウイルス感染防止のためR2.3月を未実施のため) 受講者 114名 受講者 56名 達成率80%(5項目中4項目達成) 	4	<p>農業者を対象とした農業経営セミナーは、県内の関係機関で実施する経営研修と統合されたため、次年度は単独では実施しない。</p> <p>農作業安全使用の必要性は今後一層増してくるので、引き続き効率的・効果的な研修の実施に向けた改善を図っていく。農業技術課で主催する農作業安全研修(3回、参加者約200人)についても今年度同様に支援する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな発想を持って、就農する人材が必要である。訓練でも、新たな発想や展開を行っている成功者の講演など、刺激を受けられる内容のものを実施してほしい。 ・毎年、農業機械の操作ミスにより尊い命が失われている。安全研修にはもっと力を注いでほしい。